

## 岡部定一郎「福岡城寸描」(34)

### 黒田24騎小傳(7)

#### 堀 平右衛門正儔

生没年 : 不明 ~ 1636 年

位置付 : 大譜代

禄 高 : 2 千 600 石

別 名 : 明石久七、定則

次に紹介する益田与助や村田出羽達と同じく、微賤な取り立て者である。明石久七と称し、黒田家の家臣、住江茂右衛(当時500石)の従卒となったが、その性格は乱暴であった。

文禄の役では、規律を無視することもしばしばであったが、抜群の戦いぶりが人の目を奪い、数々の手柄によって、500石に取り立てられた。筑前入国の時には、2千600石を拝領する。

その後、本藩と分かれる秋月藩の独立に奔走したが、秋月藩成立後、5千石の家老であった平右衛門のあまりにも厳しい独善的なやり方は反感を買った。寛永5年(1628)に脱藩した平右衛門は、小田原城主稲葉正勝(11万5千石)に仕え、3千石で箱根関所の総番頭となった。

旧主黒田長興が関所を通る時、袴を着装して両手をつき、見えなくなるまで平伏していたという逸話が残っている。



家紋



三扇

堀 平右衛門の博多人形(ふくおかフィナンシャルグループ1階に展示)